

## 令和6年度第1回骨寺村荘園遺跡指導委員会会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回骨寺村荘園遺跡指導委員会
- 2 開催日時 令和6年9月3日(火) 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階大会議室B
- 4 出席者
  - (1) 委員 誉田慶信委員、佐川正敏委員(副委員長)、佐々木邦博委員、  
玉井哲雄委員、広田純一委員(委員長)、中村琢巳委員、八重樫忠郎委員、  
工藤武委員、沼倉恵子委員、五十嵐正一委員、佐藤恵子委員、  
佐藤光雄委員、佐藤登委員、小巖芳夫委員  
※欠席者 佐藤一美委員
  - (2) アドバイザー 佐藤淳精岩手県南広域振興局土木部一関土木センター道路河川環境課長  
(代理)  
※欠席者 半澤武彦岩手県文化スポーツ部文化振興課世界遺産課長、  
畠山英勝岩手県南広域振興局農政部一関農村整備センター所長
  - (3) 事務局 氏家克典副参事兼文化財課長兼骨寺荘園室長、  
木村修骨寺荘園室長補佐兼骨寺荘園係長、  
金野修文化財課長補佐兼文化財係長、原田祐骨寺荘園室主事、  
菅原孝明文化財課学芸主査兼骨寺荘園室学芸主査

## 5 議 題

### (1) 報告

- ア 文化的景観部会の開催内容について
- イ 重要建物の調査について
- ウ 史跡部会の開催内容について
- エ 令和6年度発掘調査報告
- オ その他

## 6 公開、非公開の別 公開

## 7 傍聴者 1名

## 8 内容

### (1) 報告

- ア 文化的景観部会の開催内容について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員長 当日参加されている委員の方もいらっしゃるの、補足的意見を頂戴でき

ればと思う。

委員 最初にイグネの話をしたが、やはりこの重要文化的景観の特徴の一つにイグネと防風林がある。そこで調査に当たって、このイグネの基本的なこと、またセットになっている母屋とイグネの配置、そしてまた石造物の話を述べた。それで先ほども言われたが、実はそれプラス管理なのですよね。持ち主はどのように管理していくかという管理方針があればありがたい。今回、中村委員に調査していただくことになったため、大雑把で構わないからイグネがどのような状態で管理されているのか、高木と低木とがどのような配置になっているのか基礎的なことを調べていただきたい。また、イグネの木陰でミョウガや昔の胃薬であるゲンノショウコを作るなどイグネにはいろいろな利用用途があったと聞いた。そういうことも併せて聞いていただければ、イグネの管理をしていく中で伐採をした方が良い部分とそうでない部分について議論できると思う。

委員長 イグネは地元からも伐採などの要望がこれまでも度々出ていた。その度に現地を確認して伐採して良いか判断をしてきた経緯がある。やはりこの段階で考え方の整理は必要かなと思っている。

委員 次の建物調査の実施との兼ね合いもあるが、今ご紹介いただいた調査の見通しのところで、2、3件代表的な建築物を調べて、全域のプロット図を完成させるという紹介があったが、実際に拝見すると、やはり2、3件よりバリエーションが多いので、まずは10件前後くらい代表的な建築あるいはイグネを中心に調べた上で、全域のプロット図を完成させる方が良いと思う。

委員 資料に記載されている通りだが、地域としては、農村景観の保存計画そのものが世界遺産を前提とした中での保存計画という面が強く出ていると思う。世界遺産そのものは、時間がかかるというような状況の中で、地域では何を残せばいいのか、その辺をきちんと改めて整理する必要があると考えている。

委員長 おっしゃる通り、非常に時間のない中で、景観計画も併せて1年で作ってしまった。今見ると、やはりいろいろ不足している部分があると感じる。重要文化的景観だと重要な景観要素というか、そういうのを定めることになっているが、今の計画の中には、重要建物はあるがそれ以外はないとか、おっしゃる通り改めて何が重要かを明らかにする必要があると非常に感じている。補足は以上だが、委員の皆様方から何かもしご意見質問があれば頂戴するが、いかがか。

委員 この保存計画に絡んで、文化庁から調査官が参加されていると聞いた。その調査官の専門分野は分からないが、先ほど委員から話があったようにやはり世界遺産はいろいろな形で地域に混乱を与え「時間がかかる」ということで、どれくらいの時間がかかるかはよくわからないにしても、文化庁の調査官の方からは、何か世界遺産との関わりで、何かコメントされるようなことはあったのか。

事務局 文化庁では、世界遺産担当の調査官がおり、今回の調査官は文化的景観の担当で建築士の資格を持っている。むしろ建物の専門だと思う。部会の中で、特に世界遺産の関わりとしてのご意見は、特にはなかったと記憶している。

委員 しかし、これまでのいろいろな経緯の中で、重要文化的景観というものに指定していくということと、世界遺産に向かっていくということは、切り分けて考えられる部分と、そうでない部分というものがあったということは、今までの委員会の議論の中でも明らかだった。別に今回の調査官にそのことを問いただすということをしるしを上げているのではなくて、一応文化庁から来られているということで、そういった一連の経緯をどこまできちんと認識されているか伺いたかった。

事務局 部会するとき事務局からは、これまでの経緯もあるので、この文化的景観の保存計画の改定は、「文化的景観の価値を再認識しながら調査を進めて、改定に結びつけるという目的で進めていく」という話をしたが、文化庁からは「文化的景観の価値はもう明らかではないか」という話をずっとされていた。しかし、今回の部会に参加していただいて、文化的景観の計画改定の必要性について「こういう経緯で進めていく方針を理解できた」とおっしゃっていたので、来ていただいた意味はあったと考えている。

委員長 私も文化庁に対していろいろな意見はあるが、当時の担当ではない調査官に意見を言うのは気の毒という気持ちがある。ただ、これまでの経緯はしっかり理解していただきたい。

委員 文化庁の担当の方とどう対応するかというのは非常に難しい問題で、文化庁もある意味で縦割りというか専門があり、自分の専門分野でしか答えられないので、その辺のことをこれからどのように対応するか考えていきたいと思う。

委員長 大変示唆に富むアドバイスありがとうございます。他の委員はいかがか。

委員 文化庁との絡みではないが、石造物について、墓が倒れそうになっている

状態を歩いてよく見る。それは、墓の持ち主からすれば、非常に気が気でない。一つ気がかりなのは、田圃の畦畔の中に祠のような古墓が転がっている。大塚統子氏が今から20年ほど前に石造物の調査をしており、昔の祠のようなものを調査するのも面白いのではないかと思う。もちろん骨寺村の荘園絵図の中に出てくる神社もあるが、そういう荘園絵図に書かれてない神社や安永風土記にも載っていない神社があり、そのような祠が眠っているのではないかと考えてみたことがある。それで現地を歩いてみたら、祠があったから、一体この祠は何なのかというようなことを考えた次第である。建物は木造だから残らないが、石造物は残る。それを丹念に、拾い集めて整理することによって、骨寺村荘園絵図の段階から近世まで含めた長い歴史の中で、石造物が語る歴史的な文化を再現できれば、中世までさかのぼることもできるのではないかと考える。それは広い意味で文化的景観に繋がってくるのではないかと考えた。

#### イ 重要建物の調査について

資料に基づき事務局から説明し、中村委員から補足説明を行った。以下、質疑応答等。

委員長 何かまた新しいお宝が発見されるかもしれないが、他の委員はいかがか。

委員 中村委員がかなり丁寧に調査されているようで、これは大いに期待していると改めて思う。私達が調査する建築史は、どうしても古いものを探すと、個別の建物しか目がいかない。屋敷構えや付属屋の使い方など、そのようなところまでなかなか目がいっていなかったのが私達が現役で調査していた20年ほど前から結構考え方が変わってきたが、それがうまく受け継がれていなかった。ここで中村委員が来てこのような形でがんばってくださったのは非常に建築史の立場としても心強い。それから、これは意外に、本寺の集落全体に関して見直す非常に良い材料になるのかなと思う。我々は残っている建物で判断する立場である。だから、残っている建物も明治くらいまでしか遡れないが、残っているものをきちんと調べてそれを考えていけば、その前のことはだんだん分かってくる。そういうことを積み重ねていくことによって、中世まで一気に行くのはなかなか簡単なことではないが、そういうものを受け継がれているものが何なのかというのを、現在我々が見るものの中で考えていくのは非常に重要なことなので、中村委員が2棟3棟ではなく10棟とおっしゃったようにバリエーションまで捉えないと、なかなか分からないので、中村委員の負担が多のような気もするが、こちらの方ももっといろいろ協力して、建築調査をがんばっていただければありがたい。

委員長 腕の良い大工さんは本寺地区内にいたのか。

委員 たくさんいた。今は、後継者がいなくて数えるくらいしかいない。だから、どこの農村でもそうだったと思うが、地域の風土に合わせた形の屋敷を造ったのではないかと思う。

委員長 このあたりは、いわゆる気仙大工の技というのは伝わっているのか。

委員 千厩などにすごく派手な蔵や民家があるが、気仙大工の豪華絢爛な派手さというよりは、少し気仙大工を意識した造り方で、逆にシンプルで、居心地が良いのではないかと思う。豪華絢爛な建築物は、バランスが良く機能的で、かつ装飾はきちんと華やかにして人をお迎えできるような印象があり、民宿などに適しているかもしれない。

委員長 本当に新しい資源が見つかるかもしれないし、民泊の話はこれまで地域でも出ており、観光客が宿泊する時の売りになると思う。この重要建物調査についてご質問とかご意見があれば伺いたい。

委員 私は数日前までモンゴルで2000年前の遺跡を発掘していて今年は発掘ばかりしていたので、今のようなお話を聞いて新鮮に感じた。同時に、この地区において当然いろいろなフォークロア、民俗学に関わる、いろいろな調査もおそらく今までもやってきたと思うが、先ほどの気仙大工風の話などいわゆる近世史ともつながっている民俗学的な調査も今後は進めていければ良いと思った。

委員 私は民俗学的な調査を本当に必要だと思っている。歴史的なものが発見されるのには必ず理由があり、そのものを残そうとするその先祖の働きがあるから残るわけだが、先ほどの祠の話について、やはり祠を作るというのは何か重要な意味がある。神社は神様が浮遊する場所であり、空を飛んでいる神様が座る場所が祠である。その祠が発見されるまで長い歴史があり、祠が発見されるということは神様を祀ろうとする人々が居たということなので、その信仰というのはそう簡単には消えないと思う。そういった形で骨寺村がどのようにしてできたのかなどをもう一度考え直してみるのも面白いので、入間田先生も既に調査しているが、もう一度調査するのも大きな意味があると思ひ発言した。

委員長 本日、入間田先生はいらっしゃらないが、まさに骨寺村の成立論まで遡ると思う。天台宗の主権が入る前に、在来の本寺の住民の方々が田んぼを始めていたということは事実なので、現在の骨寺村の住民の信仰みたいなものにも繋がっているかもしれないと思った。事務局はいかがか。

事務局 過去に「本寺地区の民俗」という報告書は出ている。その中に「屋敷地の中に御明神様という神様が必ずいる」という信仰があったことが記載されていたので、その辺りは文化的景観の保存計画とも関連してくると思う。その民俗学的調査を今後するかは考えなければならないと思うので、それは検討課題にしたいと思う。

委員長 改めて調査結果を見直すことは必要かもしれない。この重要建物の調査の成果に期待したい。

委員 私は交流館に勤務している。先日は、宮城県の大崎市から3名いらっしゃり、食事をとりながら「非常に良いところですね」というお話をしていただいた。私は「どこが良いか」と伺ったところ、「何もないところが良い。看板や電柱などが目立ってなくて、非常にシンプルな農村的景観で良い。」と言われた。基本は、中世から続くといわれる農村としての景観を、いかに守り、それを全国に発信していくかが重要ではないかと思った。今、事務局からも話があったように、私の家は私で3代目だが、私の屋敷の北西に御明神様がある。これこそ信仰の村、骨寺村として地域を守ってきた本当の原風景なのかもしれないと思っている。また、農村景観について、やはり水田を地域に残さなければならないと思う。これまでは、土水路についての話を頂戴してきた。土水路も大事だと思うが、それ以上にどこから水を引いて、どのように用水を行い、現在の田んぼを守ってきたのかということが重要だと思う。そういう意味ではあまり土水路に力を入れず、農地や地域を守る、そのための手段というようなものを新たな計画の中に盛り込んでいただければありがたい。それから本寺の特徴として、道路から家屋までの距離が非常に長い家、いわゆる門口がある。これも非常に景観上は重要ではないかと思っている。その門口は非常に狭く、一間くらいしかない。現在の大きい乗用車や大型の農機具を利用しようとする、非常に無理がある。農村や農地を守るとすれば、現時点ではやはり機械でなければ保全できない、作業できない、効率の問題もある。そうすると門口の脇には必ず水路が付いているのが一般的で、その水路を土水路のまま残すとすれば、どちらかに拡張するか、水路に蓋をして、少し広めの道路にして、大きな農機具を使えて、なおかつ次の世代にも家に住み続けたいという意欲を持ってもらえるような計画であってほしいと個人的に思う。いずれ、せっかく今の建物の調査をしているわけだから、それとあわせて屋敷構え、あるいはイグネの中には杉以外のものもあるから、杉も大事だが、杉だけを守るのではなく、イグネの中にある様々な

生活に恵みを与えてくれるようなものを積極的に今後も植え替えをするなど守っていくということが本寺を守り、なおかつのどかな農村景観を守っていく手段ではないかと思う。

委員長 それでは重要建物の調査という報告内容だが、建物に限らず、生業と生活に関わる様々なものが本寺全体に残されていて、今もまだ生きているわけだから、やはりそういうものへの注目というのは非常に重要だと改めて思った。

#### ウ 史跡部会の開催内容について

資料に基づき事務局から説明し、以下、質疑応答等。

委員 今事務局から言われた通り、最も古い整地層が見つかったということで、もし整地層を広げていって、今の駒形根神社まで繋がるような連綿とした歴史性がひょっとしたらこの話で証明できるのではないかと考えた。なにせ年代を特定できる遺物が見つからないということで、それはもう非常に頭が痛いところで、いつの段階の整地層なのかまだ確定できないということで、これからやっぱり発掘に期待することになると思う。

委員 今、委員がおっしゃった通りだが、整地層というのは結構難しい。地山起源の土を3回ほど盛り、それがいつなのかということだが、立地を見ると平安時代から同じ場所に建っていた可能性も指摘できるわけで、その辺がわかればいいが、なかなか難しいようだ。ただ、年代をもう少しヒントにするには炭化物等を採集する方法もあるので、何とか泥炭層などで年代決定をしてもらえればと思う。近世にも当然あのようなお宮を建てるわけだから、整地層というのはあってしかるべきだが非常に綺麗だなという気はした。近年の整地であれば色々な新しいものが混ざりそうだが、全く混じっていないことを期待したい。

委員 今回の発掘に関しての内容を十分理解できているか心配だが、それ以上に現在建っている近世社寺と呼ばれている建物は、古い建物ではないため今まであまり注目していなかった。ただ、近世段階で建てられたものとしては決して悪くない。あくまで近世段階での景観ではあるが、そういうものを建築的に評価して、それが近世段階でどういう意味を持っていたのかを広い範囲で把握することによって、その前の時代である発掘現場の中世からどう繋がっているかがわかるかもしれないから、その前の段階を視野に入れるということ積み重ねることによって中世から近世の大きな流れが少しずつわかってくるのではないかと期待した。

委員長 見慣れてしまって当たり前にあるものみたいな感覚が我々にもあると思った。

その他、山王窟とか不動窟等の見学路整備について、いかがか。

委員 委員会の1週間前に現地を拝見させていただいた時は、拝殿と神楽殿の間のところはまだ発掘調査をしていなかった。それで、先程の整地c、b、aと東側に少しずつ平場を拡張している。今回は残念ながら年代がわかる遺物が出なかったということで、今のところ年代の確定は難しいということだが、少なくともそういう経緯があったということはわかった。また、真ん中の部分の拝殿のすぐ西側のところのトレンチに1トレとか2トレのように名前は付けられているのか。1トレンチ2トレンチ、それから1bトレンチ、これが拝殿神楽殿のところだが、ここの部分の地層、例えば斜めの線が入っているが2トレの断面図と書いてあるのは、地山もしくは整地なのか。

事務局 その通り。今の話は、資料4の第3図の2トレンチの断面図のお話だったと思うが、斜めに見えているところは、地山の土を使った整地層だろうと判断しているところなので、地山そのものではない。

委員 1bトレンチという一番南側の小さい四角のところでも1メートル弱くらい斜めだが、一応整地をして平場を南側に確保する。そういう段階があったということか。

事務局 その通り。

委員 第2トレンチはBとB'だから、拝殿のすぐ西側でもそれなりの整地の厚みがあって南へ広げているということか。この部分の整地と昨年度の調査で磬とか灯明皿のかわらけが見つかった地層との関係というのは、どのような関係になるのか。

事務局 まだ、そこまでしっかりと検討していない段階ではあるが、2トレンチと言っているところと1bトレンチと言っているところ、2トレンチの右側の所と1bトレンチの左側のところがくっついてくるのかなというイメージとして持っているところなので、正確に昨年度見えていた層、これが1bトレンチにあたるが、ここの層と2トレンチの断面図のここの層に正確に合致するというにはまだ検討段階なので、今の段階でははっきりとは申し上げられない。

委員 昨年度、発掘された鉄製の磬あるいはかわらけの灯明皿の存在は、実はとても重要なわけで、それらが発見された地層というのは、ある程度南に押された整地の中に含まれていた可能性もあるかもしれないし、少なくとも後世

に押されてややかく乱された中から出てきたものというわけではないはず。

整地の中に含まれていたと考えられるということなのか。

事務局 今年度の調査で、第3図1トレンチの黒色土を使った整地層ということになっているが、これが昨年度磬などを見つけた層に多分繋がってくるのだらうという想定はしている。なので、押されているというよりは意識的に整地しているところに遺物は含まれていたと考えている。

委員 今後、非常に重要な部分なので、事務局の方で十分検討整理していただければと思う。

委員長 承知した。私の理解が追いついていないところもあるが、昨年度の遺物は、意図してその場所に捨てられたということか。

事務局 その通り。昨年度遺物が出た層というのは、おそらく意図的に整地した層があつてそこに捨てられていた、廃棄したのか、ただ忘れたというのは判断できないが、そういう層に含まれていたのではないかと考える。

委員長 ありがとうございます。地域の方はいかがか。

委員 私が聞いたのは、去年のまでまだ3mもいっていない。調査をするべき地層がまだ残っている。「ここは前に掘ったところ」と言いながら手前を掘って、「今回はこれで終わり」と遺物が発掘される手前で終わっている。

委員長 手前で終わっているというのは、この平面図の色区分か、それとも図1の隙間部分ということか。去年の部分と今年のオレンジ色の部分。ちょっと色が見にくいですが、去年の緑というのは一番南側。

委員 その通り。

オレンジ色の所で今年は終わっている。「この間は来年度調査する。」と言われたから、そんなに気にはしていなかった。

委員長 令和6年度の分はほぼ終わったのか。

事務局 令和6年度の調査は終了した。

委員長 ちなみに、令和7年度どこ掘るかはまだ決まっていないのか。

事務局 まだ決まっていない。駒形根神社の境内地を継続してやりたいと考えているが、具体的にどこを掘るかというところまでは、まだ確定はしていない。

## エ 令和6年度発掘調査報告

資料に基づき事務局から説明し、以下、質疑応答等。

委員長 次どこを掘るかはまだ決めていない話があつたが、候補として挙がっている場所はあるか。

事務局 一つはやはり今年度掘った拝殿と神楽殿の間のところのどこかを一つ入れたいと考えている。神楽殿の南東側あるいは逆に北側を考えている。正確にはこの次の親会で来年度の調査計画については議事として挙げさせていただきたいと思っている。

委員長 皆さんの方から何かご質問ご意見があれば伺う。

委員 親会で申し上げるべきことだが、改めて第3図の1トレ2トレンチそれぞれの断面図を拝見すると、特に2トレンチ断面図という右下の断面図で斜線が引いてある部分が地山の部分になる。本来はこの地山がどこかでむき出しになっていて、南よりでやや斜めになるが、北よりになるほど、おそらく推定だが、水平に近いような感じで整地をしている可能性がある。そうするとやはり建物など何か信仰の厚い対象になっているものがなければ、やはり地山まで、ある幅で出した方が良く思う。それで一つは整地の状況をやはり南北できちんとまず追いかける。なかなかそれを平面的にどこまで広げられるのかというのは、今は申し上げにくいですが、現時点での斜線が書いてあるところの上面。現状で一番古いところに何かの遺構、そのようなものがあるのかどうか、それから断面を地山まで出す中で、どういう遺物がでてくるのか、先程委員が話したように木炭などが出てこないか、そういうところは改めて気になる場所なので、次の親委員会の中でまたいろいろと意見交換をしていただければと思う。

委員長 素人からすると、拝殿の周りなどがすごく気になる。この拝殿自体もやはり整地した上に造っている可能性もあると思う。

事務局 その通り。

委員長 親委員会というのは今年度中に開かれるか。

事務局 委員会は年度内にもう一度あるものと考えている。

委員長 ではなく、史跡の部会。

事務局 史跡部会については、今のところ考えていない。

委員長 承知した。

本日の委員会は報告事項のみだったが、建物について今後期待できる部分が結構ありそうだということで、非常に楽しみになってきた。どうもありがとうございました。

オ その他

委員長 せっかく皆さんが集まる機会なので、本寺地区で行われる米納めや収穫祭などの行事の日程を教えてください。

事務局 例年通り 9月29日に稲刈り体験交流会、それから、11月2日に収穫祭と秋祭りを予定している。それから、米納めは12月15日を予定している。その他には、11月に秋の土水路整備がある。

委員 土水路整備は11月16日を予定している。

委員長 年明けの行事はないか。

委員 年明けは、3月に夕日を見る会があるがここ2、3年は開催していない。

委員 国学院大学の稲刈りが10月20日過ぎ頃にあると思う。

委員長 米納めなどなかなか他では体験できない行事なので、委員の皆様方もぜひ、中尊寺まで足を運んでいただきたい。ちなみに、この指導委員会は今年度にもう1回開催するのか。

事務局 次は2月を予定している。

皆様方から、たくさんの意見をいただいた。こういった意見を踏まえて今後の骨寺事業を進めて参りたい。特に、地元の委員からいただいた、本寺の農村景観、やはり生活生業に関する文化的景観というものなので、地域の皆様がそういった部分で持続可能になれるような、そんな計画改定に結びついていけばいいと、市としては考えている。

## 9 担当課 教育委員会事務局骨寺荘園室